

カードや絵本も利用できる

幼児が、かなを覚えるための玩具として市販されているものに、“文字板”があります。犬の絵の裏に「い」という文字があり、馬の絵の裏に「う」という字のあるものです。この“かな”の部分に、紙を貼りつけ、それに、「犬」「馬」……などの漢字を書き入れるのです。

かなを覚えるのに比べて、漢字は、どんなにやさしく、楽しく覚えられることでしょう。幼児にとっては、「犬」から「い」を、「馬」から「う」を抽出することは、おとなが考えているほど簡単なことではありません。

“かるた”も、かな文字を覚えるのに、昔からよく使われています。正月の遊びに、いろはがるたを買ってやりますと、正月のうちに、かなをすっかり覚えてしまうことは、ご経験の方もきっといらっしゃると思います。かるたは、文字を覚えるのに役立つ、一つの有力な方法です。

私は、「漢字カード」「漢字かるた」を作り、すでに多くのご家庭で使っていただいております。本書の末尾に、これらの発行所を書いておきますので、ご利用ください。

しかし、漢字カードにせよ、漢字かるたにせよ、お母さんの手作りは、粗末なものでも、子供にとっては楽しいものです。骨折って作ってやっ

てください。

絵本の絵に即して教えるのもよろしい。幼児のための「漢字の絵本」を、学研・幼文社などから出していますが、一般の絵本でも、十分に利用できます。

ただ、今の絵本は、かなが使われていますので、これは見えないように、紙をかなの上に貼り付けてください。そして、そのかなに関係なく、絵に相当する漢字を書き入れるのです。

たとえば、犬の絵のそばに「犬」と書き入れ、電車の絵のそばに「電車」と書き入れるのです。

絵本の内容は、動物や植物、おもちゃ、家庭の生活を扱ったものが適当でしょう。もちろん、童話、物語など、幼児の関心を呼ぶものだったら、何でもよろしい。

書き入れる漢字も、子供の知っている言葉、とりわけよく使っている言葉を表わした漢字がよろしい。

初めから、たくさん書き入れないように。初めは一ページに、一字か二字くらい。それも、目立つように、二～三センチメートル四方くらいの白紙に漢字を書き入れ、それを貼り付けたほうがよろしい。子供に「おやっ」と思わせる工夫が大切です。